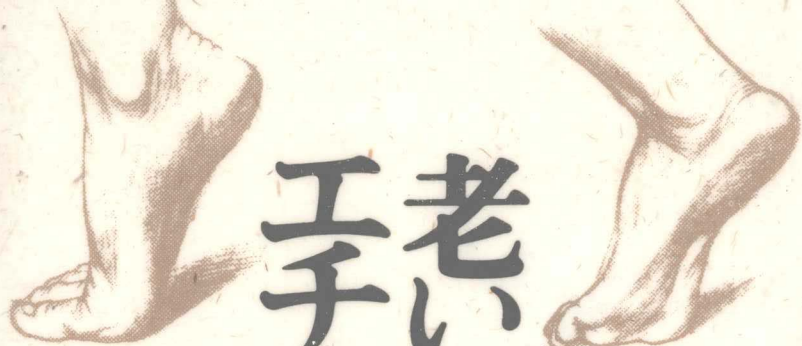


森村誠一

Morimura
Seichi

老いの
エチュード



© 1995 Seiichi Morimura

Printed in Japan



森村誠一

老いのエチュード

1995年10月10日第一刷発行

発行者 角川春樹

発行所 株式会社 角川春樹事務所

〒102 東京都千代田区六番町6-1 パレロワイヤル六番町1005号

電話03-5275-0366(代表) 03-5275-2968(編集)

発売元 株式会社 ハルキ・コミュニケーション

〒101 東京都千代田区神田神保町3-27 第一二葉ビル

電話03-3263-5881(営業)

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

定価はカバーおよび帯に表示してあります

落丁・乱丁はお取り替えいたします

ISBN4-89456-002-X C0095

老いのエチュード

目次

第1部 老いのエチュード

老いのエチュード…………… 11

*

人生の節目…………… 46

私の記念日…………… 48

私の悩み…………… 51

ワタさん（わが盟友S・W氏）へ…………… 53

わがビジョンのポール・モーリア…………… 56

「山小屋はいらないのか」に寄せて…………… 59

阪神大震災鎮魂組曲 原詩…………… 65

第2部 読書の旅人

読書の旅人……………87

*

文学における人生の証明……………104

青春と文学……………115

わが心の『源氏物語』……………129

わが心の『平家物語』……………132

野心実現の大義名分／平清盛の場合……………137

「ナンバー2」の人間学／足利直義の場合……………143

戦闘集団の組織学／赤穂浪士と新選組の場合……………151

勝機をつかむ／山本五十六の場合……………155

時代をリポートする受難の作品……………167

ことばと表現について……………173

第3部 作家のスタンス

戦後五十年、作家・出版人の思い……………183

民主主義を守るための、ふだんの警戒を……………189

七三一部隊とは何だったのか……………193

医よ、裏切るなかれ……………198

なお続く社会との“対決”……………203

民主主義と日本国憲法……………207

大腸菌体質を大切に／日本共産党へ……………215

裏切りは許せない／日本社会党へ……………220

憲法は“改正”すべきなのか／読売新聞社へ……………223

映画「きけ、わだつみの声」に寄せて……………228

真実を報道するためには何が必要か……………231

地球を破壊するな／シラク仏大統領へ……………235

あとがき……………238

裝幀／菊地信義

老いのエチュード

第1部 老いのエチュード

エチュード (フランス語: étude)

- ① 絵画、彫刻などの習作。
 - ② 西洋音楽で、おもに器楽奏法習得のためにつくられた楽曲。練習曲。
 - ③ 研究、論
-

老いのエチュード

人生の切符

人間は生まれると同時に切符をもらう。人生という切符である。

一日一枚、出生と同時に運命の神からもらう切符の枚数は人それぞれに異なっている。もらった本人自身、何枚あるか数えることはできない。

若い間はもらった切符の枚数など気にもかけない。切符の数は無限だとおもっている。

だが、生まれたときから確実に枚数は減りつつづけている。もらったが最後、減る一方で、決して増えることのない切符である。

大病を煩ったり、奇禍に遭ったりして生命の危機に瀕すると、無限だとおもっていた切符が急に残り少なくな感ずる。適切な治療や幸運によって命拾いをしたとき、切符が増えたように感ずる

が、それは錯覚であつて、運命の神があたえた切符は増えることはない。

切符が増えたのではなく、その人間の運命が強かったのである。

人間は日暦のように一日ごとに切符を切っていく。日暦は痩せていても年が替われば新たな日暦を補給されるが、人間の切符は決して補給されない。決して補給されることのない切符を、どのように有効に使うか。

人間が切符を有意義に使うと気づいたときは、たいてい枚数が残り少なくなっている。

人生の切符を買えるものなら買い足したいが、絶対にどこにも売っていないのが人生の切符というものである。

だが、補給はできないが、切符の切り方によっては二倍も三倍も、あるいは十数倍にも有意義に切符を使うことができる。仮に一人十枚の切符を二倍有意義に使えば、二十枚に増えたのと同じである。これが、いわゆるクオリティ・オブ・ライフ、生き方の質と言うものであらう。

人間は年齢を重ねるにしたがつて、人生の量から人生の質へと転換を迫られる。転換できない者には、不本意な老後が待っている。

昔は人生五十年と言われた。織田信長は桶狭間に出陣する前、敦盛の一部「人間五十年、下天の内をくらぶれば夢幻の如くなり」と謡い舞った。本能寺の変によって全国統一を目前に、明智光秀の奇襲を受けて自刃したのが四十八歳であつた。森蘭丸、天草四郎、沖田総司、大石主税、

楠木正行、赤木圭一郎などは紅顔の美少年のイメージで若死にしているが、アダルトあるいは老けた雰囲気の人々の享年を見てみよう。

橋本左内 二十五歳

北村透谷 二十六歳

高杉晋作 二十八歳

吉田松陰 二十九歳

木曾義仲 三十歳

小林多喜二 三十歳

坂本竜馬 三十二歳

北条時宗 三十三歳

近藤勇 三十四歳

正岡子規 三十五歳

芥川龍之介 三十五歳

尾崎紅葉 三十六歳

国木田独步 三十七歳

幸徳秋水 四十歳

今川義元	四十一歳
河合継之助	四十一歳
楠木正成	四十二歳
滝田栲陰	四十三歳
若山牧水	四十三歳
大石内蔵助	四十四歳
井伊直弼	四十五歳
二葉亭四迷	四十五歳
有島武郎	四十五歳
山田長政	四十六歳
加藤清正	四十九歳
夏目漱石	四十九歳
松尾芭蕉	五十歳
井原西鶴	五十一歳
後醍醐天皇	五十一歳
ナポレオン	五十二歳
足利尊氏	五十三歳

成吉思汗（チンギス・ハン） 六十歳

明治天皇 六十歳

いずれも六十歳以前である。夏目漱石や井伊直弼や芭蕉などは少なくとも六十代後半から七十代のイメージである。

幕末の志士や明治、大正の作家の若さには驚嘆する。彼らが実際の寿命より長寿のようにイメージされているのは、それだけ彼らの人生の質が充実していたからであろう。

人生の充実度とは関係なく、我々昭和・一桁、あるいは二桁初期の年代の者は、人生二十年を義務づけられていた。二十歳になったら天皇陛下の召しに応じて、死ぬ覚悟をしなければならない。因みに昭和二十年（一九四五）、終戦時の平均寿命は、男二十三・九歳、女三十七・五歳であった。

太平洋戦争末期には、学徒の徴兵年齢は十九歳に引き上げられ、人生十九年となった。

十九歳で否応なく国家の強権にすくい取られ、戦争という大量死刑台に乘せられてしまったのである。

幕末の志士や明治、大正の文豪、五十代前に死んだ歴史上の人物などには、老後というものはなかった。